

令和2年度 学校自己評価システムシート(大川学園高等学校)

目指す学校像	校訓「自律 協調 奉仕」のもと、一人一人の生徒を大切に、社会に貢献する人材を育てる学校
重点目標	「チーム大川」として、「福祉マインド」による教育活動を展開し、生徒・保護者・地域等からの信頼を得る ①「学び直し」により、どの生徒にも学ぶ喜びを実感させ、着実に学力を身につける ②深い生徒理解に基づく生徒指導を徹底し、進路実現を図るとともに人格の完成を目指す ③地域と連携して、開かれた学校づくりをすすめるとともに、安定した生徒募集を実現する

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校関係者評価委員会会議を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者評価委員	5名
	事務局(教職員)	4名

学校自己評価		年度評価		学校関係者評価		
年度目標	令和2年5月	C(評価)	達成度	A(次年度への課題と改善策)	実施日	
1	<p>○学習意欲が低く(家庭学習の習慣が身につけていない)、義務教育段階の学習内容の定着が不十分である生徒が多いため、保護者から「学び直し」への期待の声がたいへん多く聞かれる。</p> <p>○成績上位層の中から「入れる学校」から「入りたい学校」へチャレンジする生徒が増えてきた。</p> <p>○昨年度全校生徒の授業満足度は84%であるが、教員は「主体的・対話的で深い学び」のある授業実践は不十分と自己評価している。 →学習の「学び直し」体制のさらなる充実 →競争率の高い学校への進学希望を実現する学びづくり →「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実践研究</p> <p>○県への新教育課程申請手続きを来年度に控えている。 →今年度中に新教育課程第1次案を本校理事会に提出</p> <p>○新型コロナウイルスの感染拡大により、年度当初から長期間の休校措置をしており、保護者をはじめ教職員からも様々な不安の声が聞こえる。 →休校措置等の影響を最小限にするスピード感のある対応</p>	<p>○教育課程外(放課後等)の時間の活用 ・月曜日は「学び直しの日」→「ステップ・アップ講座」 ・早朝に校長特別講座「ゼロゼミ」→学習リーダーの育成 ・土曜に「サタゼミ」→生徒一人一人の実態に合った英語指導 ・金曜に「ナナゼミ」の新設→進学希望者の英語力向上 ○「主体的・対話的で深い学び」のある授業(地域等と連携したコラボ授業としての位置付けあり)として、SDM(システムデザインマネジメント)授業(慶應義塾大学大学院との連携)、普通科選択授業(フィットネス)におけるミュージカル教育(ソニー・ミュージックエンタテインメントとの連携)を実践研究 ○初任者研修会ほか各種研修への参加推進 ○各種検定合格率増加と上位級合格に向けた指導の工夫</p> <p>○新教育課程検討委員会の計画的実施</p> <p>○高専、学園本部との適時・臨時の連絡会議 ○休校措置等に柔軟に対応する教育課程の再編成 ○指導方法の工夫改善(オンライン授業の実施等)</p>	<p>【評価指標】 ○授業満足度90%以上(全生徒への授業アンケート)昨年度84% ●生徒の授業満足度は86.4% →【達成率96.0%】(86.4/90)</p> <p>【主な評価事項】 ●1 コロナ禍における学習指導の工夫・休校措置等に柔軟に対応する教育課程の再編成、オンデマンド授業の配信 ●2 教育課程外の時間の学習指導を継続 ・英検準1級合格 1名(3年普通科) ・ステップアップ講座、ゼロゼミ、サタゼミ、ナナゼミに継続参加できた生徒の満足度高い ●3 全クラス担任の道徳授業の実施(年1回)、若手教員の公開授業(年1~2回)・授業づくり研修会(5回程度)</p>	A	<p>授業等の質的向上が最大の課題</p> <p>●1→「授業の雰囲気」についての生徒評価が向上するような授業づくりを推進する。</p> <p>●2→年間継続できる生徒をより増やす工夫をする。</p> <p>●3→教員の資質向上を次年度のテーマとし、定期的に研修を実施する。(特に初任者及び若手教員研修に重点)</p>	<p>令和3年2月(コロナ禍のため書面評価) 学校関係者からの意見・要望・評価等</p> <p>・落ち着いた雰囲気の中で授業が行われている。学び直しが成果につながるとよい。</p> <p>・ステップ・アップ講座、ゼロゼミ、サタゼミ、ナナゼミ等、いろいろな形で生徒に学ぶ場を提供していることは素晴らしい。もっとたくさんの生徒がこれらの講座に参加する流れを作れるとよい。</p> <p>・各種検定等取得に向けて熱のこもった指導がみられ、合格者が増えていることは素晴らしい。</p> <p>・先生方が工夫をしながら学習指導に力を入れていることが素晴らしい。</p>
2	<p>○全体として落ち着いた生徒指導状況であるが、遅刻者が多い、SNSによるトラブルなどの問題がある。</p> <p>○中学時代まで持ち味を十分発揮できず、「あまり面倒を見てもらえてない」「自分に自信が持てない」「人と関わるのが苦手」という生徒が多い。 →小さな変化に気づき共有できる、フットワークの軽い、チームワークのよい教員集団づくり →全教育活動における心の教育の推進</p> <p>○進学・就職後1年未満に進路変更をする卒業生の報告を受けることがある。 ○昨年度進路決定率100%(大学浪人1名含む)だが、卒業生の進学・就職実績のある進路を選ぶ傾向が強い。 →生徒の実態を踏まえた進路学習計画とその実践 →1年次からのきめ細かな進路相談 →「志」の高い生徒へのサポート</p>	<p>○厳しくも温かい"面倒見がよい"生徒指導の継続 ・「3つの基本」(時間を守る/人の話を聞く/素直に聞き入れる)、「メリハリ」のある生活態度の日常指導強化 ・教職員ガイダンス資料見直しで、共通理解・共通行動の推進 ・定期的な生徒アンケートの実施 ・担任との2者面談、3者面談の実施・充実 ・カウンセラーの教室訪問等の実施 ・外部指導者によるSNS活用マナー教育の継続 ○導入3年目、担任等による道徳授業の実施継続、道徳的価値を意識した行事づくり ○「生徒自ら」に見える化する学校行事づくり(体育祭・学園祭・マラソン大会・修学旅行など)</p> <p>○新規事業の実施 ・進路講演会・資料配布会 ・進路活動講座(全6回・3年希望者) ・大学見学会(駿河台大、日本社会事業大) ○新たな進路先の開拓と生徒への情報提供 ○自主的な朝学習・面接指導などの申し出へのサポート</p>	<p>【評価指標】 ○進路満足度90%(3学年アンケート)昨年度81.4% ●3年生生徒の進路満足度は89.2% →【達成率96.0%】(89.2/90)</p> <p>【主な評価事項】 ●1 生徒に寄り添った生徒指導を実践 ・生徒の遅刻者数が減少、LHRにおける道徳授業の実践数の増加 ●2 コロナ禍で進路関係の新規事業の中止はあったが、3年生ほぼ100%進路決定 ・大川学園医療福祉専門学校への内部進学者11名(卒業生75名の14.7%) ・日本社会事業大学に2年連続合格 参考:進学68.0%、就職29.3%</p>	A	<p>落ち着いた学校づくりに向けた教員の共通理解・共通行動が最大の課題</p> <p>●1→初任者教員、若手教員が増える中で、先輩職員に良きモデル行動を求めるとともに、若手教員研修会を計画的に実施する。</p> <p>●2→進路指導新規事業の実施については次年度リスタートする。</p>	<p>・教員と生徒の信頼関係の中で、生徒の登校から下校まで細かな生徒指導が行われている。生徒の服装がきちんとしており、あいさつもしっかりできている。</p> <p>・進路指導については2年連続で「福祉の東大」と言われる日本社会事業大学に合格者を出し、大学進学希望者のほとんどが合格していることは素晴らしい。大川学園医療福祉専門学校への内部進学者も増え、介護福祉士や柔道整復師の国家資格を取得し、福祉・医療分野で社会に貢献しようとする生徒が増えてきていることは頼もしい。</p>
3	<p>○「ボランティアの大川」という評価は飯能市や日高市には定着しているが、「福祉科のある大川」の評価は広がりに欠けている。 →ボランティア活動の継続 →県内唯一の福祉科のある高校としての存在感を示す取組の推進</p> <p>○本年度全日型(週5日登校)入学生は93名(定員80名)で「普通科2学級」を実現したが、中学生の急減、県西部地域の公立高校の定員割れなど、引き続き生徒募集環境が厳しい。 →法人本部広報室と連携した戦略的な広報、生徒募集活動の推進</p>	<p>○市内外のボランティア活動等を継続 ・学校行事(飯能新緑ソーデーマーチへの全校生徒参加、赤い羽根共同募金) ・飯能市周辺行事(飯能まつり、震災復興元氣市、天覧山清掃等)へのボランティア参加者増加 ○福祉科の実績づくり ・介護技術コンテスト等に応募 ・2022全国福祉高校校長会研究協議会への協力 ・2年連続日本社会事業大学の合格に向けたサポート ・大川学園医療福祉専門学校との合同授業 ・福祉系大学からの教育実習生受け入れ ・福祉系検定の合格率アップ</p> <p>○定期・臨時の生徒募集委員会開催 ○学校説明会参加者増加に向けた取組推進 ・効果的な募集について職員研修 ・参加者の情報管理システムの一層の改善 ・学校説明会の運営方法の工夫改善 ・見ごたえのある学校案内の作成 ・出前授業などの増加に向けた取組 ・管理職によるトップセールス ○ホームページの改善、学校ブログ「大川学園高校NOW!」の毎日更新</p>	<p>○福祉科40名、普通科40名定員充足率100%以上 昨年度の福祉科43名、普通科50名をさらに伸ばす ●新入生は福祉科33名、普通科43名の予定(3/17現在) →【達成率81.7%】(76/93)</p> <p>【主な評価事項】 ●1 福祉、ボランティア分野の教育活動に大きな影響があったが、一部に新たな取組 ・「福祉の大川」「ボランティアの大川」をアピールする機会喪失(福祉科施設実習、地域イベント等の中止) ・関東地区高校福祉研究発表会へのリモート参加は評価大(専門学校職員等の支援、オール大川の取組) ●2 コロナ禍の募集環境の変化に対する迅速な対応に努力 ・「密」を避ける福祉科・普通科別の学校説明会、1月入試を1日から2日日程に変更等 ・「彩の国進学フェア」など校外の募集イベント中止、開催方法変更などの影響あり</p>	A	<p>「福祉科のある大川」の実績づくりと募集定員確保に向けた取組が最大の課題</p> <p>●1→行事の再開にあわせて地域連携の取組を復活させる。 →福祉科施設実習に代替する学内実習に向けた準備と実践をする。</p> <p>●2→法人広報室と入試募集委員会が一層連携を図った募集活動を推進する。</p>	<p>・コロナ禍の生活を余儀なくされ、多くのイベントが中止されて、地域の方々とふれあう機会が失われてしまったのは残念であった。そのような中で、地域清掃ボランティアを企画したり地域自主防災会主催の起震車により地震体験に参加する等の取組みがみられた。今後も地域とのコミュニケーションを大切にしたい。</p> <p>・生徒募集については気を抜けない現状であるが、県内で中学校卒業生が減少していることを思えば、善戦していると言えるのではないかと。</p>